

平成21年度 中間評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター
研究責任者 研究課長 古原 敏弘
研究担当者 研究職員 小川 正人

Table with 6 columns: 課題番号, 課題担当者, 研究課題名, 研究区分, 各種施策等との関連性, 研究期間及び所要見込額. Includes details for 'アイヌ文化一般2104' and 'アイヌ文化研究を側面から支えた人々の歴史に関する調査研究'.

研究背景
・研究のニーズ
アイヌ文化の伝承・復興を目指す事業や調査研究が各地で見られるようになった現在、かつてアイヌ文化の研究や伝承活動を取りまく環境や条件が遥かに劣悪だった時代に、様々なかたちでそれを支えた人々の営みを明らかにしておくことは、アイヌ文化研究の歴史の一端を明らかにするとともに、現在及び将来の取り組みを省察する貴重な素材となる。
・道が取り組む必要性
アイヌ文化の保存伝承・調査事業においては、道及び道教委も中心的役割を果たすことが求められ続けていることから、こうした様々な活動の歴史を明らかにすることは、道の事業として意義を有すると考えられる。また、本課題のようなテーマは、一般的な研究テーマとしては取り上げられにくい基礎的な分野に属することから、公的な機関において進める必要性が高いと考える。
・関係機関等との連携・役割分担
各地域に潜在する記録・記憶を調査する事業であることから、各地の博物館等の関係機関との連携・協力を図りつつ進める。
・これまでの研究成果・知見、外部機関の知見等の活用の考え方
これまでの研究成果として挙げられるもの多くは、個別の人物や事例に関する断片的な評価・逸話であり、本課題と直接重なる主題でのまとまった研究は見当たらない。いっぽうで、北海道による「北海道開拓功労者の声」録音テープ（1968年）など、本課題と連する情報が散見できる記録資料は少なからず見られることから、本課題は、これらの蓄積の集約・整理を踏まえて進める。
研究目的
重要なアイヌ文化研究の事業において調査に協力・同行した人々、研究条件の整備や出版事業の支援などを行った人々について、既存の記録資料から情報を集約するとともに、新たな文献調査や聞き取り調査を行い、その事績や周囲の状況などを明らかにする。対象とする時期は、現在のアイヌ文化研究の直接的基盤をかたちづつった時期、すなわち、日本におけるアイヌ文化研究において専門の研究者による調査研究が行われるようになった1920年代から、アイヌ文化に対する関心が比較的高まりを見せ始める1960年代までを中心とする。
研究内容
これまでに公開または放送された情報や、既存の文献、聞き取り記録、ドキュメンタリー番組などを調査し、本課題において調査すべき対象を抽出するとともに、当時の歴史的背景の整理のため、国・道及び地域のアイヌ文化関係者等によるアイヌ文化の調査の歴史について情報の収集・整理を行う。これらの調査を踏まえ、当時の記録資料等の文献調査と、体験者・関係者に対する聞き取り調査を実施する。

直近の研究課題評価における総合評価意見及びそれに対する取り組みの状況（直近評価に対する対応の適切性）
【評価】・将来の過去のアイヌ研究の検証や補足的資料としての活用が図られることから有用な課題であり、早期に取り組むことが望ましい。
・関係者が高齢化していること配慮し、聞き取り方法を工夫する等により早期に進められた。
【対応】・聞き取り調査を平成20年度より開始する予定であったが、相手方との調整の都合により21年度夏からの実施とした。
・収集した情報をいち早く提供するため、中間報告等の機会を増やす。
研究開始後の事情変更の有無及び対応の状況（状況変化への対応の適切性）
大きな事情の変化はないが、予備的調査の中で関係者の高齢化が進んでいることが改めて確認されたことを踏まえ、可能な範囲で早期に聞き取り調査を実施するよう、計画の進め方を適宜工夫する。
年次別目標（事前評価）とそれに対応する実績（進捗度・目標達成）

Table with 2 columns: 主な目標（項目）事前評価 [年次] and 対応する実績等. Rows include H19年度 予備調査, H20年度 文献調査, H21-23年度 文献調査及び聞き取り調査, H24年度 調査のとりまとめ.

今後の研究の進め方
当初の計画どおり進める予定であり、関係者の聞き取り調査については優先的に取り組む。また、関係資料の調査に際しては、「アイヌ文化資料の内容分析」等の、アイヌ文化研究に大きな業績を遺した研究者・関係者の足跡に関する研究課題との関連に留意し、効率的な調査の進捗を図る。
成果の活用策（成果の活用の可能性）
本研究課題による成果は、アイヌ文化研究史の素材となるとともに、地域におけるアイヌ文化の記録・保存・伝承活動の参考事例や先駆的取り組みの事例として参照される等の活用が期待できる

Table with 4 columns: 個別評価, 自己評価, 総合評価, 意見. Includes evaluation criteria like '直近評価に対する対応の適切性' and '状況変化への対応の適切性'.

(A)当初(事前評価時点)の計画どおり、または計画以上に取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる
(B)当初(事前評価時点)の計画に比べ、やや遅れが見られるが、概ね目標は達成しており、今後効率化などの努力により一定の研究成果が見込まれる
(C)今後の見通し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である
(a)極めて高い、適切である (b)高い、概ね適切である (c)低い、改善の余地がある